

# SECカーボン株式会社

## 2024年3月期 決算説明資料

2024年5月14日  
コード番号5304 東証スタンダード  
**SECカーボン株式会社**

1. 2024年3月期 決算実績
2. 2025年3月期 業績予想
3. 製品別トピックス
4. サステナビリティ/ESG
5. 補足事項

# 1. 2024年3月期 決算実績

---

# 2024年3月期 連結損益比較

- ・売上高については、世界経済の持ち直しを背景として、特にアルミニウム製錬用カソードブロックの販売が好調であり、増収となりました。
- ・各利益については、電力料金等の上昇によるコストアップ要因はあったものの、販売数量の増加や為替レートが円安に推移したことによる輸出の収益性改善により、増益となりました。

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	増減額	増減率
売上高	30,401	<b>37,307</b>	6,905	22.7%
営業利益	6,490	<b>10,217</b>	3,726	57.4%
経常利益	7,610	<b>11,555</b>	3,944	51.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,402	<b>7,299</b>	1,896	35.1%
為替レート (円/USD)	134.84	<b>145.34</b>	10.50	

# 2024年3月期 連結売上高比較

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	増減額	増減率	増減理由
アルミニウム製錬用 カソードブロック	19,353	<b>26,619</b>	7,266	37.5%	更新需要堅調により、販売数量増加
人造黒鉛電極	6,615	<b>6,136</b>	▲ 479	▲ 7.2%	国内外の粗鋼生産低迷により 販売数量減少
特殊炭素製品	3,681	<b>3,603</b>	▲ 78	▲ 2.1%	非鉄金属向けは堅調だが、一部需要家 での在庫調整により販売数量減少
ファインパウダー 及びその他炭素製品	751	<b>948</b>	196	26.2%	加炭材などの販売数量増加
合計	30,401	<b>37,307</b>	6,905	22.7%	
国内比率	27.2%	<b>19.5%</b>			
輸出比率	72.8%	<b>80.5%</b>			

# 2024年3月期 連結貸借対照表 及び 連結キャッシュフロー計算書比較

## 連結貸借対照表

単位：百万円	2023年3月期末	2024年3月期末	増減額
<b>流動資産</b>	47,960	<b>54,866</b>	6,905
現金及び預金	19,367	<b>22,344</b>	2,977
受取手形及び売掛金	11,590	<b>13,433</b>	1,842
棚卸資産	16,682	<b>18,708</b>	2,026
<b>固定資産</b>	24,594	<b>32,932</b>	8,337
有形固定資産	10,550	<b>12,405</b>	1,854
投資有価証券	13,789	<b>20,309</b>	6,519
<b>資産 合計</b>	72,554	<b>87,798</b>	15,243
<b>流動負債</b>	7,029	<b>10,307</b>	3,277
買掛金	3,643	<b>4,121</b>	477
未払法人税等	1,799	<b>2,414</b>	615
固定負債	3,114	<b>4,596</b>	1,482
<b>負債 合計</b>	10,143	<b>14,903</b>	4,760
<b>純資産 合計</b>	62,411	<b>72,894</b>	10,483
利益剰余金	45,377	<b>51,294</b>	5,917
<b>負債純資産 合計</b>	72,554	<b>87,798</b>	15,243
<b>自己資本比率</b>	86.0%	<b>83.0%</b>	▲ 3.0%

## 連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	増減額
現金及び現金同等物の期首残高	22,188	<b>19,087</b>	▲3,101
<b>営業活動によるCF</b>	2,337	<b>7,794</b>	5,456
税金等調整前当期純利益	7,575	<b>10,386</b>	2,811
減価償却費	1,117	<b>1,377</b>	260
売上債権の増減額	▲4,700	<b>▲1,842</b>	2,857
棚卸資産の増減額	▲2,179	<b>▲2,026</b>	153
仕入債務の増減額	1,328	<b>477</b>	▲850
法人税の支払	▲927	<b>▲2,859</b>	▲1,931
<b>投資活動によるCF</b>	▲4,349	<b>▲16,029</b>	▲11,680
定期預金の預入	▲280	<b>▲12,920</b>	▲12,640
定期預金の払出	250	<b>280</b>	30
有形固定資産の取得	▲2,268	<b>▲3,248</b>	▲979
投資有価証券の取得	▲1,935	<b>▲70</b>	1,864
<b>財務活動によるCF</b>	▲1,027	<b>▲1,393</b>	▲366
配当金の支払	▲1,015	<b>▲1,381</b>	▲366
現金及び現金同等物の期末残高	19,087	<b>9,424</b>	▲9,662
<b>現金及び現金同等物の期中増減額</b>	<b>▲3,101</b>	<b>▲9,662</b>	<b>▲6,561</b>

### トピック

- ・投資活動によるCFの大幅な支出超過と現金及び現金同等物の減少は、期間3ヶ月超の定期預金を12,640百万円増加させたことによります。

## 2. 2025年3月期 業績予想

---

# 2025年3月期 連結業績予想

- ・売上高は、品種ごとに増減はあるものの、通期では概ね前期実績と同等になるものと見込んでおります。
- ・各利益については、製品の拡販やコストダウンに取り組むものの海外市況の価格低下が見込まれるため、前期実績を下回る見込みです。

単位：百万円	2Q累計				通期			
	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	16,791	<b>15,700</b>	▲ 1,091	▲6.5%	37,307	<b>36,900</b>	▲ 407	▲1.1%
営業利益	4,868	<b>2,900</b>	▲ 1,968	▲40.4%	10,217	<b>8,200</b>	▲ 2,017	▲19.7%
経常利益	5,651	<b>3,200</b>	▲ 2,451	▲43.4%	11,555	<b>9,000</b>	▲ 2,555	▲22.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,863	<b>2,000</b>	▲ 1,863	▲48.2%	7,299	<b>6,000</b>	▲ 1,299	▲17.8%
為替レート (円/USD)	141.73	<b>145.00</b>	-	-	145.34	<b>145.00</b>	-	-



# 2025年3月期 連結売上高予想

- 海外市況の価格低下が見込まれ、アルミニウム製錬用カソードブロックは前期を下回りますが、人造黒鉛電極及び特殊炭素製品、ファインパウダー等の拡販により通期では概ね前期実績と同等になるものと見込んでおります。

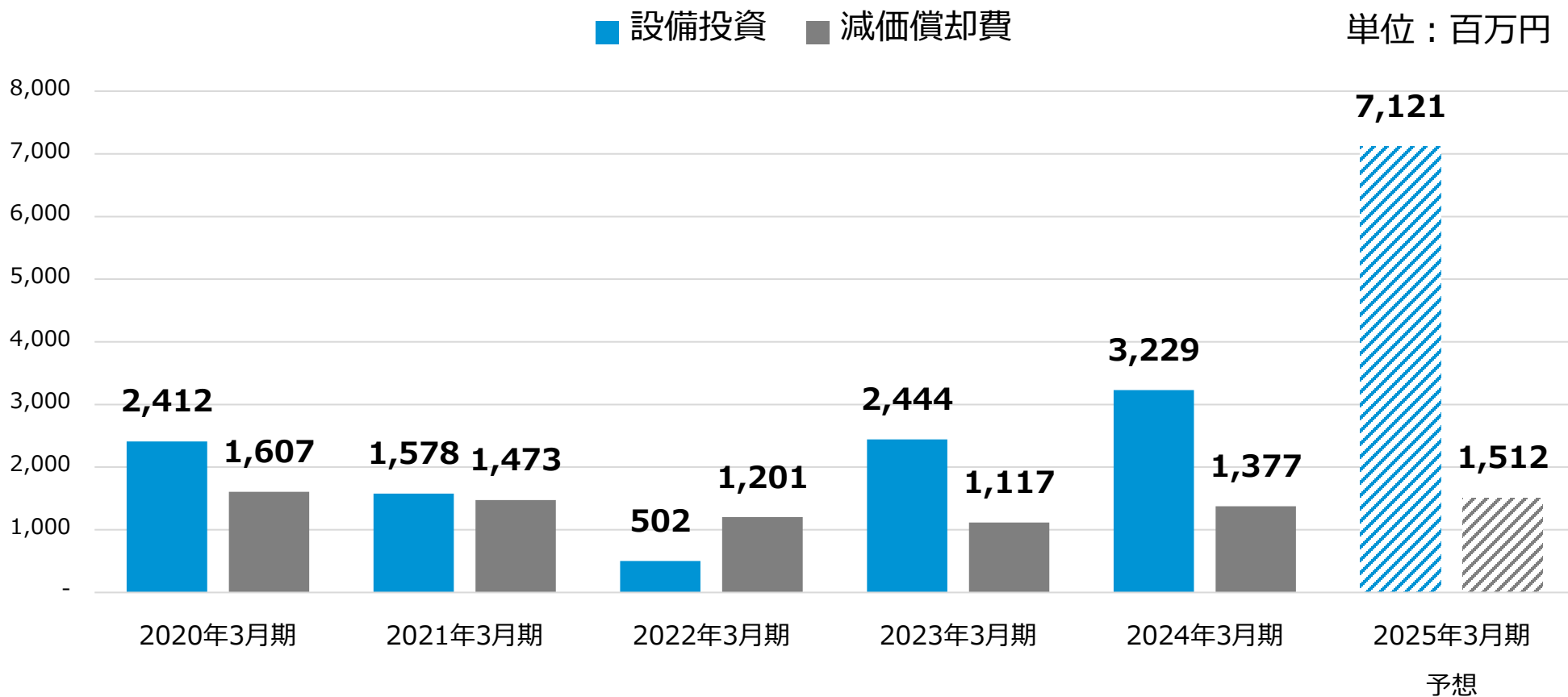
単位：百万円	2Q累計				通期			
	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率
アルミニウム製錬用 カソードブロック	12,094	<b>10,336</b>	▲ 1,758	▲14.5%	26,619	<b>25,355</b>	▲ 1,264	▲4.7%
人造黒鉛電極	2,468	<b>3,104</b>	636	25.8%	6,136	<b>6,607</b>	471	7.7%
特殊炭素製品	1,775	<b>1,790</b>	15	0.8%	3,603	<b>3,943</b>	340	9.4%
ファインパウダー 及びその他炭素製品	452	<b>470</b>	18	4.0%	948	<b>995</b>	47	5.0%
合計	16,791	<b>15,700</b>	▲ 1,091	▲6.5%	37,307	<b>36,900</b>	▲ 407	▲1.1%
国内比率	18.7%	<b>22.5%</b>			19.5%	<b>21.6%</b>		
輸出比率	81.3%	<b>77.5%</b>			80.5%	<b>78.4%</b>		

# 設備投資

2024年3月期の主な設備投資は、2025年秋完成予定の黒鉛化工場、黒鉛化炉の更新工事です。

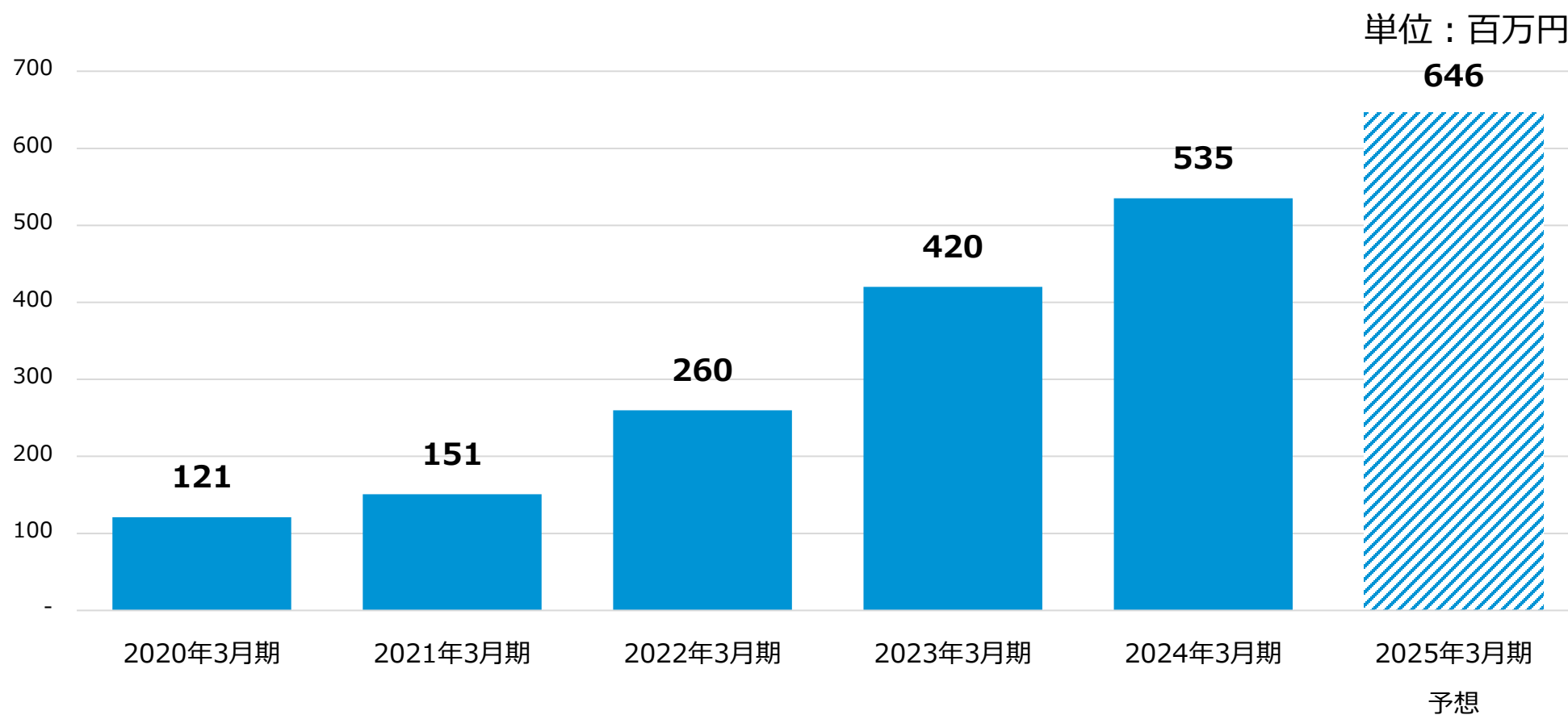
2025年3月期では、黒鉛化工場、黒鉛化炉やファインパウダー増産設備の工事進捗に伴い、設備投資額は増加する見込みです。

なお、増加する主な設備投資の稼働は、2026年3月期以降となるため、減価償却費の増加は、限定的となっています。



# 研究開発費

産官学連携を含め、新規開発品やCO2資源化に関する研究開発活動に積極的に取り組んでいます。



2024年3月期は、期末配当金を66円とし、年間配当金を100円とします。

2025年3月期は、減益予想ではありますが、配当性向30%を目安に安定配当を実施するべく、年間配当金を100円とします。自己株式の取得も諸事情考慮の上、機動的に実施します。

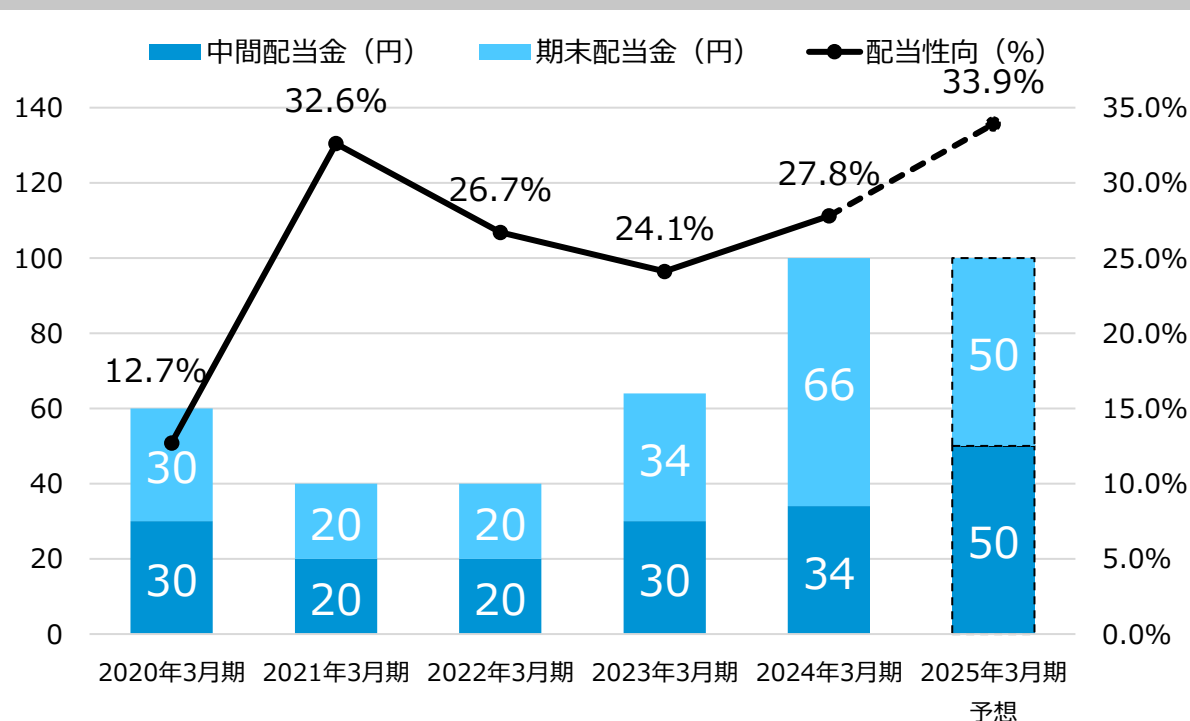
## 配当方針

収益性の向上と財務の健全性を  
図りつつ、連結配当性向30%を  
目安に永続的かつ安定的に実施

## 自己株式取得方針

業績の動向、資本の状況、市場環  
境等を考慮の上、機動的に実施

## 1株当たり配当金、配当性向の推移



※2024年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割をしております。そのため、比較のために、2020年3月期の期首に株式分割を行ったと仮定して、1株当たり配当金を記載しております。

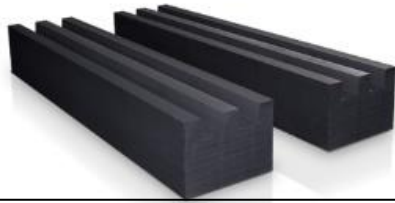
## 3. 製品別トピックス

---

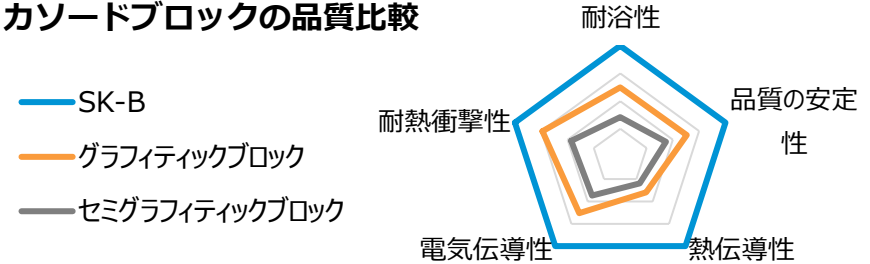
# アルミニウム製錬用カソードブロックのご紹介

## 黒鉛化カソードブロックの優位性

- 当社のアルミニウム製錬用カソードブロック（商標名：SK-B®）は、黒鉛化カソードブロックです。非黒鉛化品（グラフィティック、セミグラフィティック）に比べ、品質面で優位性があります。

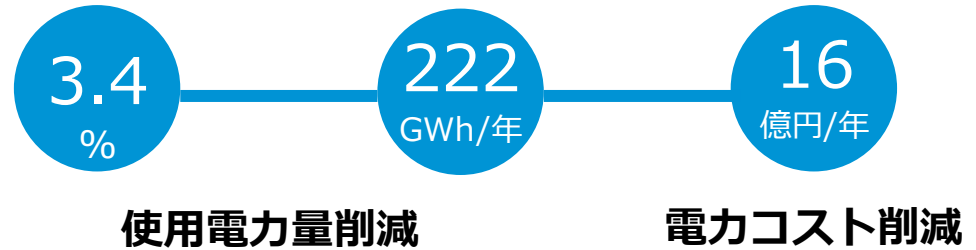


### カソードブロックの品質比較



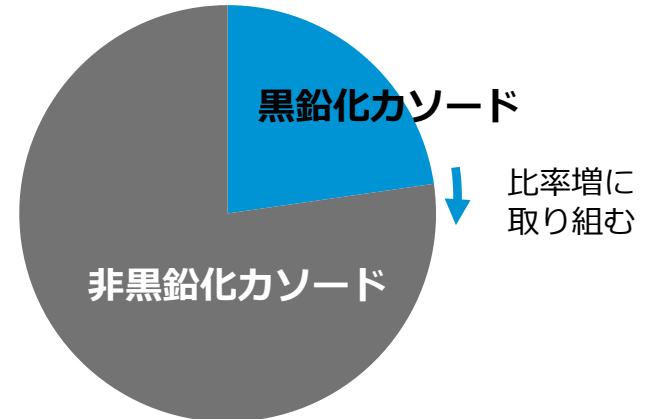
## 電力削減効果

- 非黒鉛化カソードブロックから黒鉛化カソードブロックへ転換することで、3.4%の電力使用量の削減効果があります。
- 例えば、年産50万トンの製錬所では、222GWh/年の使用電力量削減効果となり、約16億円/年のコスト削減効果となります。



## 黒鉛化カソードブロックの市場拡大

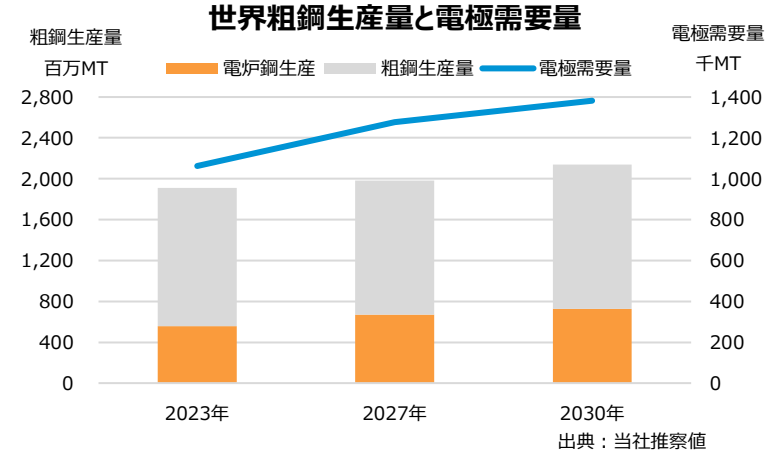
- 世界のアルミニウム製錬所では、まだ黒鉛化カソードブロックを使用している比率が低い環境です。今後、黒鉛化カソードブロックの特性を活かして、その比率を増やし、市場拡大を通じたSK-B®のさらなる販売増を目指します。



# 人造黒鉛電極のご紹介

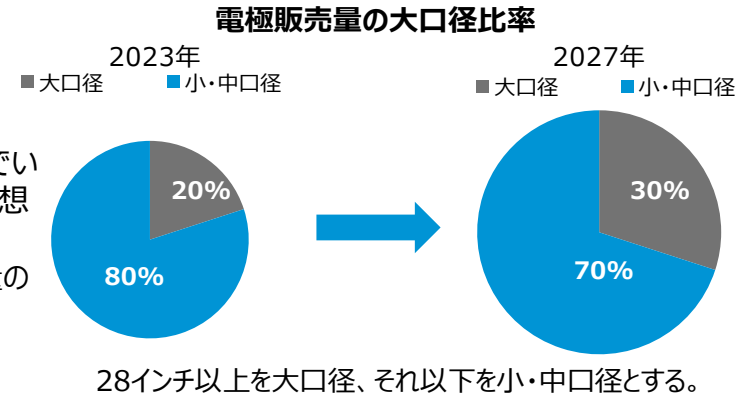
## 脱炭素化への貢献

- 人造黒鉛電極を使用する電炉法による鉄の生産は、高炉法に比べ、CO<sub>2</sub>の排出量を約75%低減できます。
- そのため、今後、CO<sub>2</sub>排出量低減に貢献する電炉鋼の拡大が見込まれます。
- 高炉メーカーも相次いで電炉に対する投資を進めており、人造黒鉛電極の需要量は、世界的なカーボンニュートラルの取り組みとともに、増加する見通しです。



## 電極の大口徑化

- 電炉メーカーにおいて、大型電炉による高級鋼の製造の取り組みが進んでいます。それに伴い、今後、新設される大型電気炉の電極は、大口徑化が想定されます。
- そのため、28インチ以上のサイズである大口徑の人造黒鉛電極の需要量の増加が見込まれます。



## 製販一体の取組み

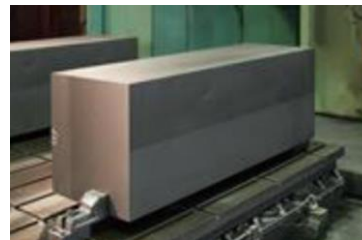
- 新興国メーカーとの価格競争が激しいため、安価な原料の調達や原単位の改善等、コストダウンに取り組んでいます。
- 大口徑の人造黒鉛電極の生産性向上のために、加工機の設備投資を検討しています。
- 品質向上のために、捏合成形設備（約14億円）の更新を予定しています（2023年8月10日プレスリリース『設備投資に関するお知らせ』もご覧ください。）。
- 輸出向けは、好調な米国を中心とした新規顧客の開拓を進めています。

# 特殊炭素製品及びファインパウダーのご紹介

## 特殊炭素製品

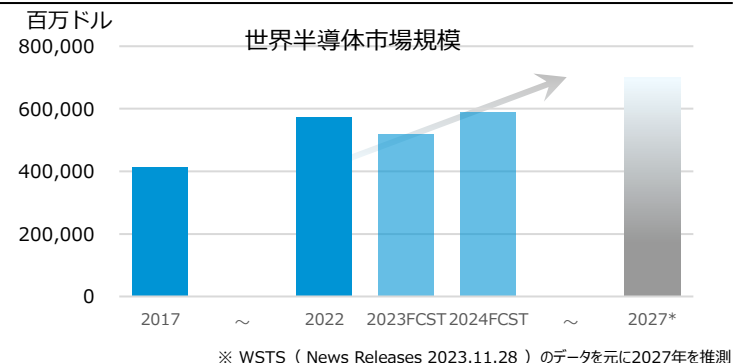
### 既存分野強化

- 近年、当社の扱う大型押出特炭材は非鉄金属向けが好調です。
- お客さまから求められる特性を強化し、差別化するとともに、安定した供給体制を整える取り組みを進めています。



### 新規開拓

- 半導体業界の拡大に伴い、半導体業界向けに、当社が得意とする押出特炭材の販売拡大に取り組んでいます。



## ファインパウダー

### 設備増強

- ファインパウダーは、自動車・EV等の関連市場の拡大に伴い、今後、大幅な需要増加が見込まれます。
- 需要に応えるため、増産設備の新設（約12億円）を進めております。新規開拓も積極的に取り組んでおり、販売拡大を図ります。





## 4. サステナビリティ/ESG

---

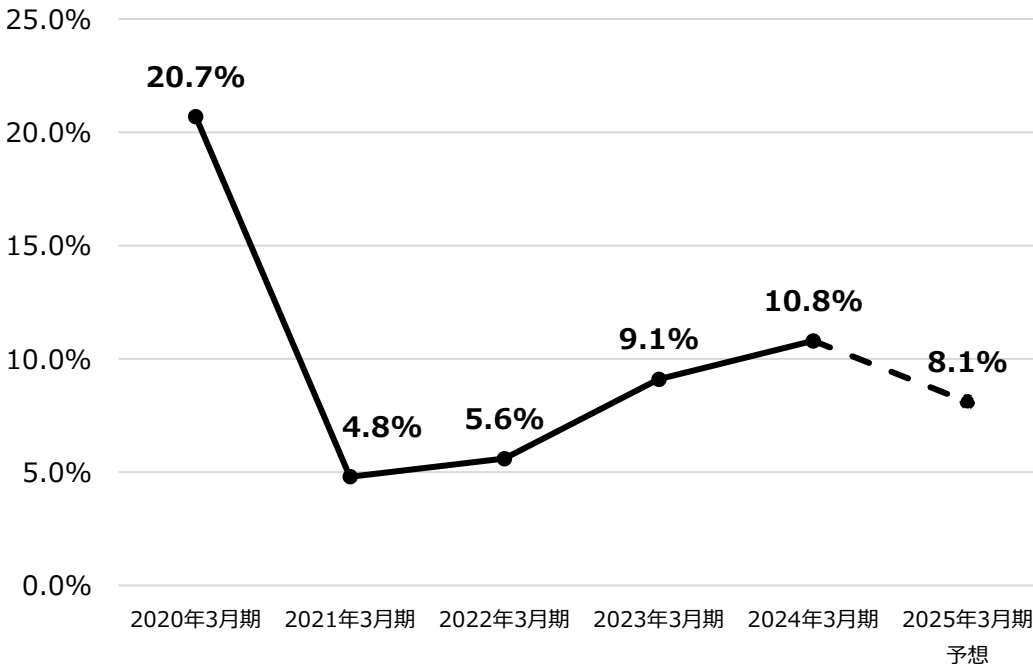
ESG	サステナブル重要テーマ (マテリアリティ)	2024年度の主な取組み事例
E (環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サプライチェーン全体でのCO2排出削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO2排出量削減目標の設定 (同削減策の検討)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カーボンニュートラル(CN)に貢献する製品開発・上市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産官学連携によるCO2資源化の研究開発の推進</li> <li>・ CO2資源化以外のCN貢献製品の研究開発の加速</li> </ul>
S (社会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様性の尊重と人財育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権基本方針の制定</li> <li>・ 人材ポートフォリオ分析に基づく人材の採用・配置・育成のあり方の検討推進</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域社会への貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工場所在地 (京都・岡山) での地域貢献活動の継続</li> </ul>
G (企業統治)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガバナンス強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資本政策の推進</li> <li>・ ESG情報を含む開示情報の充実</li> <li>・ 女性社外監査役就任 (6月株主総会にて選任予定)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ステークホルダーとの対話促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投資家を含むステークホルダーとの対話機会拡充</li> </ul>

# 資本政策の推進

企業価値向上を図るための経営指標として当社グループはROE（自己資本利益率）を採用しています。貸借対照表も意識した経営を行う事により資本効率を高めてまいります。

ROE推移

目標ROE：8%

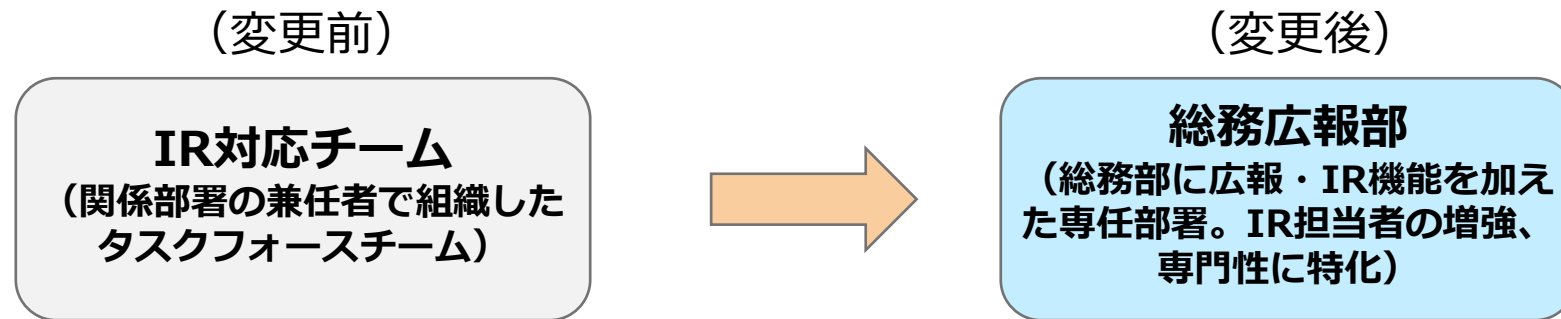


ROE		ROE
収益性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営業力強化</li> <li>・成長／戦略投資</li> </ul>	生産設備の改善・増強や 研究開発への投資のみならず、M&A等の戦略投資も積極的に推進
効率性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在庫圧縮</li> <li>・政策保有株売却・縮減</li> </ul>	第9次中計の資産圧縮方針に則り、同中計期間中に累計60億円相当のターゲット資産の圧縮を段階的に実施
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配当</li> <li>・自己株式取得</li> </ul>	株主還元方針に則り、安定的な配当、自己株式の取得を実施

# 投資家との対話（IR活動）促進

当社は、適時・適切な情報開示に努めると共に、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざし、重要なステークホルダーである株主・投資家の皆さまとの建設的な対話を進めてまいりました。

このIR活動をより促進するため、2024年4月16日付で以下の組織変更を実施しました。



当社の企業価値を適正に市場に反映できるよう、法定開示事項・適時開示事項に加え、株主・投資家の皆さまに必要な情報である任意開示事項も、適時・適切に情報開示いたします。また、株主・投資家の皆さまからのご意見・ご要望についても、定期的に社内フィードバックを行い、経営に活かしてまいります。

## 5. 補足事項

---

# 参考指標（連結）

		2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 予想
設備投資	(百万円)	2,412	1,578	502	2,444	<b>3,229</b>	7,121
減価償却費	(百万円)	1,607	1,473	1,201	1,117	<b>1,377</b>	1,512
研究開発費	(百万円)	121	151	260	420	<b>535</b>	646
有利子負債	(百万円)	-	-	-	-	-	-
金融収支	(百万円)	256	225	262	526	<b>725</b>	615
売上高	(百万円)	35,136	21,299	22,919	30,401	<b>37,307</b>	36,900
海外売上比率	(%)	62.9%	62.6%	65.2%	72.8%	<b>80.5%</b>	78.4%
為替レート	(円/USD)	108.66	106.25	112.89	134.84	<b>145.34</b>	145.00
営業利益	(百万円)	13,823	3,081	3,222	6,490	<b>10,217</b>	8,200
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	9,635	2,496	3,039	5,402	<b>7,299</b>	6,000
ROE	(%)	20.7%	4.8%	5.6%	9.1%	<b>10.8%</b>	8.1%
営業キャッシュフロー	(百万円)	4,362	3,367	7,615	2,337	<b>7,794</b>	
投資キャッシュフロー	(百万円)	▲ 2,544	▲ 1,943	▲ 954	▲ 4,349	<b>▲ 16,029</b>	
フリーキャッシュフロー	(百万円)	1,817	1,423	6,661	▲ 2,011	<b>▲ 8,235</b>	
財務キャッシュフロー	(百万円)	▲ 1,039	▲ 1,032	▲ 826	▲ 1,027	<b>▲ 1,393</b>	
現金及び現金同等物	(百万円)	16,010	16,385	22,188	19,087	<b>9,424</b>	
中間配当金	(円/株)	30	20	20	30	<b>34</b>	50
期末配当金	(円/株)	30	20	20	34	<b>66</b>	50
年間配当金	(円/株)	60	40	40	64	<b>100</b>	100
配当性向	(%)	12.7%	32.6%	26.7%	24.1%	<b>27.8%</b>	33.9%

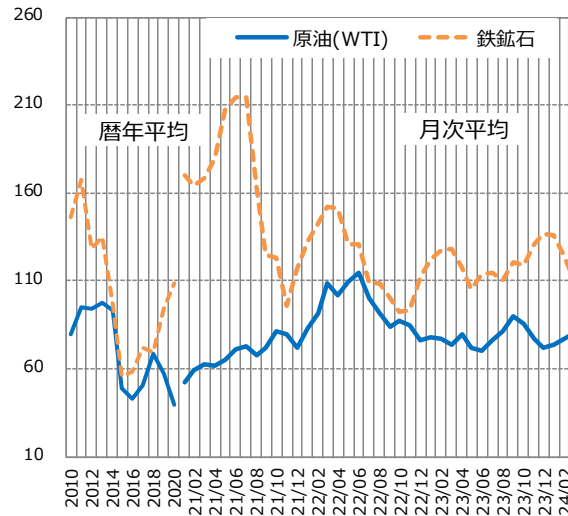
※配当金：2024年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割をしております。

比較のために、2020年3月期の期首に株式分割を行ったと仮定して、1株当たり配当金を記載しております。

# 参考資料 (マクロ経済指標)

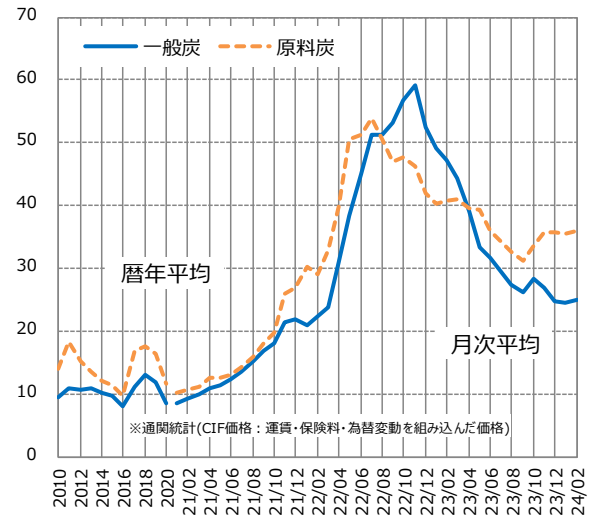
世界経済は、まだら模様の緩やかな回復の中で、減速感を伴いながら推移している。米国経済は金融引き締めの中でも堅調さを見せるが、ユーロ圏経済は物価高騰と金融引き締めなどの影響で景気後退局面入りと言える。中国経済は各種対策を講じているとはいえ、なかなか減速感を払拭出来ていない。こうした中、日本経済は緩やかな回復途中で足踏みしている。

● WTI原油価格 (\$/barrel) 、鉄鉱石価格 (\$/MT)



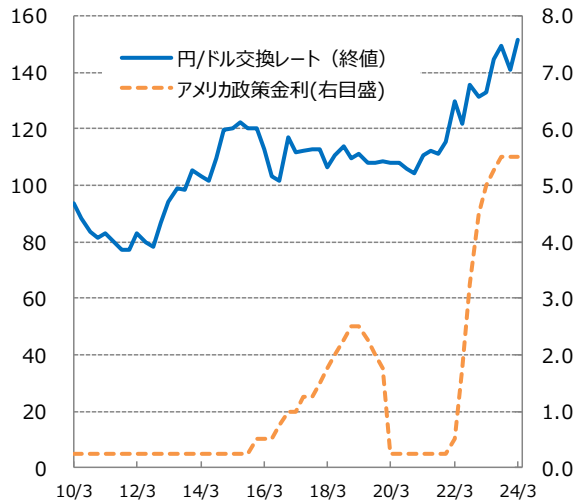
出典：World Bank Commodity Markets

● 一般炭、原料炭 (千円/MT)



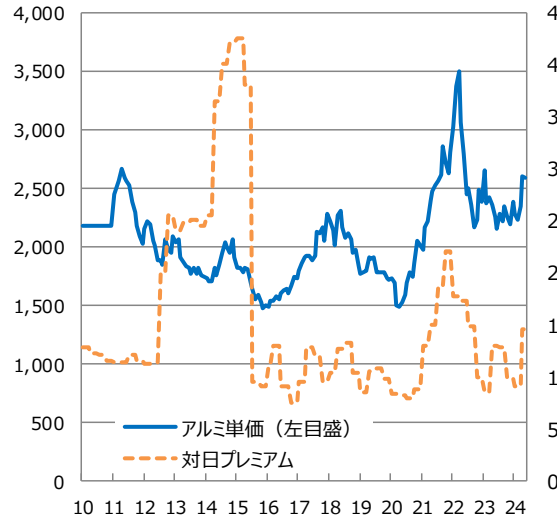
出典：財務省貿易統計

● 為替レート (円/ドル) 、アメリカ政策金利 (%)



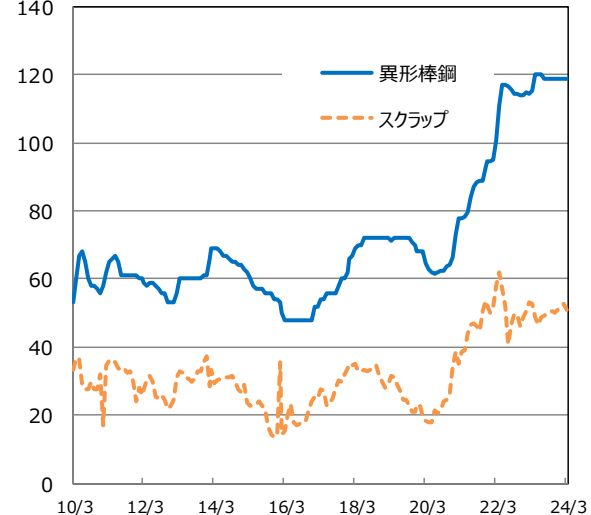
出典 為替：Yahoo!ファイナンス アメリカ政策金利：Federal Reserve

● アルミ価格 LME単価と対日プレミアム (\$/MT)



出典 アルミ単価：LME 対日プレミアム：新聞記事

● 国内異形棒鋼価格、スクラップ価格 (千円/MT)



出典：日本鉄リサイクル工業会



### ご留意点

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問い合わせ先  
SECカーボン株式会社 総務広報部  
☎ 06-6491-8600 (代表)  
<https://sec-carbon.com/contact/>